

私がなぜ現在の科目を選んだか

「乳腺内分泌外科」

信州大学医学部外科学第二教室
家里 明日美

なぜ現在の科を選んだかは非常にシンプルで、手術が面白いと思ったからです。

外科を選ぶことを決めたのは、5年生の臨床実習で、外科1を回り、手術の面白さ、美しさを見た時です。病気が取り除かれていく、治っていく過程を実感できる醍醐味に大変惹かれました。それまでは、外科は忙しそう、女性には向いてなさそう、縁のない遠い世界、と思っていましたが、実際に手術を間近に見て、自分でやってみたいという気持ちが膨らみ、様々な消極的思考は一気に吹き飛びました。その後は迷いもなく、ただ外科医になりたいという思いを胸に研修医時代を過ごしました。

信大の外科は6つの専門に枝分かれしており、入局してすべて回った後にどれを専門とするか決めなければいけません。この時は悩みました。乳腺内分泌外科

私がなぜ現在の科目を選んだか

「放射線科」

信州大学医学部画像医学教室
轟 圭 介

私は長野県北部の小さな村で育ちました。「一人前の医師になり、地元に戻って地域医療に貢献する」漠然とですがこんなことを考えながら、学生生活を過ごしていました。

私が放射線科を意識し始めたきっかけは臨床実習です。画像が読めないなりに一生懸命考え、診断できた時の達成感。治療方針の決定の現場に何度も居合わせ、放射線科医が「doctor's doctor」と呼ばれていることも知りました。「画像診断って楽しいな。放射線科ってカッコいいな」そう思ったのが放射線科への興味の始まりでした。

放射線科への思いが強くなる一方、迷いも生まれました。放射線科医はいわゆる皆がイメージする「お医者さん」とは違います。地域医療に貢献するという当初の思いとの乖離もあり、進路に悩みながら初期研修

は、診断から手術を含む治療、看取りまで、一人の患者さんを全部診ることができ、これが一番の魅力だと思います。また私は高校時代に、将来何か研究分野に携わりたいと漠然と考えていました。乳腺は内科的治療も外科でカバーしているので、研究未開拓の領域が沢山残っているのではないかと、外科の中で一番研究できそうという勝手な推測が後押しして、乳腺内分泌外科に入局しました。

現在、私は子供2人を持ち、研究と外来に携わっています。1人目を出産した頃は、早々帰宅するのが、他先生方に申し訳なく思えましたが、2人目が生まれた頃からは良くも悪くも因太く、早々帰り早々寝て、子供の寝静まる早朝に仕事や勉強をするようになり、生活はガラリと変わりました。家事育児と仕事を両立させて、女性外科医のモデルケースとなることが私の一番の務めと考えています。また手術や外来など実臨床でも、支えてくださっている諸先生方に恩返しができると思います。さらに癌とは何なのか、どうしたら治るのか、研究をより進めて深く探求したいという思いもあり、今後も乳腺内分泌外科においてやりたい課題は山積みです。(信大平20年卒)

に臨みました。

私が初期研修を受けたのは3次救急、がん診療、地域医療を支える中核病院でした。そこでは毎日多くの先生が放射線科医に相談に訪れます。読影レポートが待ち望まれます。血管造影が必要とされます。放射線科医が病院の診療の質を支えているといっても過言ではありませんでした。放射線科医がいかに必要とされているのか、ということを変更して実感しました。

また、放射線科医の守備範囲が所属病院に留まらないことも学びました。現在、当科は常勤の放射線科医がいなく多くの病院と提携し、遠隔読影を行っています。私が地域医療研修中に診断に悩んだとき、遠隔読影で速やかに解決していただきました。「放射線科は地域医療にも貢献している。放射線科医になれば長野県全体の医療の質を上げられる」そう確信し、私は放射線科の門をたたきました。

現在は修行の毎日です。読影、IVR、放射線治療と覚えることも多いですが、やりがいを感じています。一人前の放射線科医になり、医療の質を上げ、多くの患者の命を救うこと。それが私の当面の目標です。

(信大平25年卒)